

令和6年能登半島地震復興支援コンサート

# 光 芒

Koubou

- 映像と三味線が紡ぐ平和の旋律 -

2024年4月21日(日)  
16:00 開演(15:30 開場)

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館  
コンサートホール(新潟市中央区一番堀通町3-2)

【出演】

島村 仁 (ナレーション) 庄司 愛 (ヴァイオリン)  
更家 健吾 (三味線) Rica (パーカッション)  
加藤 亮介 (ピアノ) 新潟高橋竹山会

※収益金の一部を能登半島地震災害義援金として寄付いたします。

今、日本と世界が直面する厳しい情勢に対し、深い祈りを捧げつつ、  
このコンサートが一筋の希望の閃光として輝き、  
世界平和への強いメッセージを宣言します。  
先進的映像技術と共に、伝統と革新が共存する新次元の感動スペクタクル。

三味線プレイヤー

史佳 Fumiyoshi

【チケット】全席自由 **3,000** 円(税込) ※未就学児入場不可

【プレイガイド】インフォメーションセンターえん(新潟日報メディアシップ1階)、りゅーとぴあ(インフォメーション)、セブン-イレブン ※NIC新潟日報販売店でも取り次ぎます。

【主催】新潟日报社

【企画制作】株式会社 WORLDCOMPASS

【映像制作】株式会社ソルメディアエージ(SOLU MEDIAGE inc.)

【特別協賛】菊水酒造株式会社、五十嵐建設工業株式会社、株式会社明和、株式会社達建設

【お問い合わせ】新潟日报社ふれあい事業部 〒950-8535 新潟市中央区万代3-1-1 TEL.025-385-7470(土日祝を除く午前10時から午後5時)



# PROFILE

## 史佳 Fumiyoshi

新潟市出身。

三味線演奏家、芸術家、伝道師、キュレーター、執筆、メディアレポートなど三味線ジャーナリストとして多方面で活躍中。三味線瞬間芸術という独自の世界観を持つ、唯一無二の三味線演奏家。2019年新潟高橋竹山会三代目会主高橋竹秀を襲名。同年、新潟市内にF-space三味線スタジオを建設し、三味線文化の普及、次世代情操教育を担っている。コロナ禍において、文化芸術が存続の危機に直面する中、アフターコロナの新しいスタイルでのコンサート開催の継続を実現し、様々な可能性を提唱、自ら検証しながら演奏活動を続けている。その才能は、2019年のカーネギーホールコンサートでも認められ、2021年10月2回目となるカーネギーホールコンサートで、ジャズベースの神様ロン・カーター氏との世界初共演が実現。そして、2022年8月には、ふるさと新潟にて、ロン・カーター氏との日本初共演も実現した。新潟日報デジタルアンバサダー。



## 島村 仁 (ナレーション)

東京都出身。

15歳で単身ハワイへ留学し21歳で帰国。音楽は言うまでもなく料理、映画、建築等の知識もトークの魅力のひとつ。趣味は旅、写真、ヨガ、サーフィン、スキー。料理研究もライフワークとしている。メインプロデューサーを務めた野外ロックフェスティバル「Jin Rock Festival」は2019年まで12年続いた。FM新潟「Jin's radio show」のパーソナリティー。



## 更家 健吾 (三味線)

和歌山県出身。

史佳Fumiyoshiの演奏を聴き、弾き三味線の音色に魅了され、三味線の道へ。2014年「史佳三味線 CROSSOVER LIVE」で長岡成貢氏作曲の神風(かみかぜ)をツイン三味線で参加し、演奏家としてデビュー。2019年10月には、史佳単独公演ニューヨーク・カーネギーホールの舞台上で史佳と共に演奏を行った。三味線ユニット「Three Line Beat (スリーラインビート)」のメンバーとしても活動中。ロック育ちの感性で独自の世界観を創り上げている。



## 庄司 愛 (ヴァイオリン)

新潟市出身。

ソロや室内楽、さまざまなジャンルにて演奏活動を行うほか、新潟市ジュニアオーケストラ教室、桐朋学園大学附属「子どものための音楽教室」、新潟中央高校等で後進の指導にも力を注いでいる。桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業。これまでに山宮あや子、奥村和雄、辰巳明子の各氏に師事。2019年10月・史佳Fumiyoshiと共にカーネギーホールの舞台上で演奏。



## Rica (パーカッション)

大阪府出身。

19歳よりドラムを始める。2008年から2013年の約5年間、ロックバンド「THEUNIQUESTAR」のドラマーとして活躍。2014年三味線プレイヤー史佳Fumiyoshiのライブに参加。ニューヨーク、フランス、ドイツなど海外でも公演を果たし、音楽活動の幅を広げる。津軽三味線の古典曲には、カホンを使用するなどジャンルにとらわれない柔軟性のあるスタイルにも力を注いでいる。



## 加藤 亮介 (ピアノ)

神奈川県出身。

4才よりエレクトーンを始める。そのままエレクトーンをやめることなく続け、学生時代にエレクトーンを通し音楽を学ぶ。最も得意な鍵盤はOrgan。Organサウンドを通しJazzFunkに傾倒し、そこからR&B、Soul、Popsなど音楽の幅を広げる。最近ではピアノを弾くことも多く、時に繊細に、時にソウルフルに、を心掛けている。現在はアーティストのサポートや、作編曲、レコーディングなど活動中。



## 新潟高橋竹山会

初代高橋竹山師の竹山流津軽三味線を正しく継承する会として新潟県内外を問わず活動しており、現在は二代目会主・高橋竹育が100名近い会員を束ねる。2002年5月には第14回津軽三味線全国大会にて、団体戦A級第3位の成績を収める。2001年、2004年にはハワイ・マウイで演奏会を開催し大成功を収め、2005年には念願のホノルル公演を実現し1500人を動員した。2006年にはCD「ひとすじ」をリリース。総勢60名による大合奏を収録するなど、聴きごたえのあるアルバムとなっている。2009年にはフランス・ナントでの演奏会も成功を収め、2012年にはニューカレドニアの日本人入植120周年のイベントに出演し好評を得る。2019年には、二枚目のアルバム「絆」をリリース。日本においても三味線の大合奏のできる数少ない会として注目を浴びている。